

眼科



眼科 千葉 矩史
(ちば・のりふみ)

2025年4月より非常勤医師として勤務させていただく事になりました千葉矩史と申します。当院の眼科は現在、獨協医科大学からの非常勤医師が月木金で勤務させていただいております。

当院と獨協医大の関係は古く、40年以上前に関連病院となり診療させていただいております。私の父も過去、常勤医としてお世話になったと聞いており、縁の深さを感じております。

私は現在、眼科医9年目で主に白内障、硝子体、緑内障の手術を担当しています。眼科手術は年々進化しており、白内障に関しては最小2.2mmの切開創で手術が施行でき、また移植される眼内レンズは従来の単焦点レンズからピン트가合う距離を増やした多焦点レンズなど、選択の幅が広がっております。また他の分野でも手術創の極小化が進んでおり、患者様の眼に負担をかけない手術ができる

ようになっています。

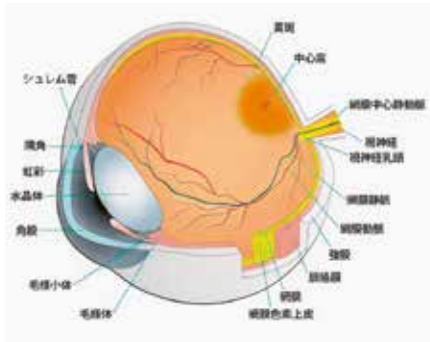
五感から得られる情報のうち、視覚情報は8割以上を占めると言われており、我々の生活において不可欠な要素です。それを守るためには定期的な眼科検診と早期治療が重要です。

地域の皆様方の健康的な生活を支えるために、今後も視覚を守るため最善を尽くし続けたいと考えております。関連病院の皆様におかれましても、眼の症状でお困りの患者様がおられましたら遠慮なく、ご紹介いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



眼の構造について

眼球は、外からの光を取り入れて、その刺激が角膜、水晶体、硝子体といった眼球の中を通り、網膜を介して電気信号となって脳へ届けられ、視覚を認識します。視力低下を生じた場合は、この光の通り道や電気信号の伝達に原因があることが考えられます。



出典： <https://www.nichigan.or.jp/public/disease/structure/item01.html>

1. 白内障

水晶体というレンズが濁る病気です。原因としては、加齢によるものが最も多く、早い方では40歳代から始まり、80歳以上では100%の方が白内障になります。他の原因には、糖尿病、アトピー、ステロイドの内服などがあります。症状は、くもりやまぶしさ、進行すると視力低下を起こします。自覚症状が軽度であれば、まだ経過観察です。

進行予防には点眼薬がありますが、視力低下が生じて不自由になった場合は、手術が必要となります。当院でも白内障手術ができますので、ご希望がありましたらお気軽にご相談ください。

2. 緑内障

視神経の障害により、視野障害を生じる病気です。主な原因は不明なのですが、「眼圧」という眼球の圧力が高くなると、

神経が押しつぶされて徐々に視野が悪化することがわかっています。

「視野」とは私たちが見えている全体の範囲のことであり、周りから徐々に障害されていきます。普段、両眼で過ごす分には気づきにくく、健診で指摘されるというケースが多くあります。そして視野は一旦悪くなると、その部分は元には戻らず、進行も止められません。よって、少しでも進行を遅らせるための治療が必要になります。最初は点眼薬（4～5種類あります）で眼圧を下げる治療をして、それでも眼圧が下がらなければ手術が必要になります。

3. 糖尿病網膜症

網膜の血管や神経の障害を生じる病気です。糖尿病とは血糖が高いことにより全身の血管に負担がかかる病気であり、三大合併症として、腎症、神経障害、網膜症があります。初期であれば、軽い網膜の出血程度ですが、悪化すると血管が詰まり、網膜が酸素不足になります。その結果、新生血管という弱い血管が生えて黄斑浮腫や硝子体出血（眼球内の出血）、さらには網膜剥離になると失明に至ります。黄斑浮腫を生じた場合は、眼球に注射（抗VEGF薬硝子体注射）を、酸素不足の部分にはレーザー治療を行います。網膜剥離に至った場合は手術が必要となります。当院では、硝子体注射、レーザー治療の対応が可能です。

4. 加齢黄斑変性症

網膜の下にある脈絡膜から新生血管が生じ、網膜を障害する病気です。原因としては、加齢や喫煙、紫外線、高脂脂肪食などがあります。その新生血管から水が漏れて浮腫を生じたり、血管が破裂して出血を生じたりすることで、歪みや視力低下を生じます。新生血管に対しては、抗VEGF薬の硝子体注射が必要になり

ます。出血を生じた場合は手術が必要になります。

5. その他（老眼、角膜疾患、感染症）

視力低下を自覚したり、ピントが合いづらくなった場合は、一度視力検査をおすすめします。加齢により、ピント調節が難しくなることを老眼といいますが、その場合はメガネで調節することが必要です。

眼の感染症はいつでも起こり得ます。眼をこすったり、植物や土などが目に入ったり、コンタクトレンズを使用している方も感染症が注意となります。充血や目やになどの症状が強い場合は、早めの受診が必要になります。

適切な医療を提供すること、患者様がご自身の病気、状態を理解できるように説明することを心がけております。気になることがあれば、いつでもお気軽に相談してください。どうぞよろしくお願いいたします。



地域連携支援室

- TEL. 0246 - 63 - 2181 【代表】内線 2161
- TEL. 0246 - 62 - 3178 【直通】
- FAX. 0246 - 62 - 2035
- E-mail renkei@kureha-hosp.com
- <https://www.kureha-hosp.jp/>

- 発行日 令和7年4月
- 発行 社団医療法人呉羽会 呉羽総合病院
〒974-8232 いわき市錦町落合1番地-1
TEL.0246-63-2181
FAX.0246-63-0552
URL <https://www.kureha-hosp.jp/>
- 発行人 田中 稔
- 編集 地域連携支援室